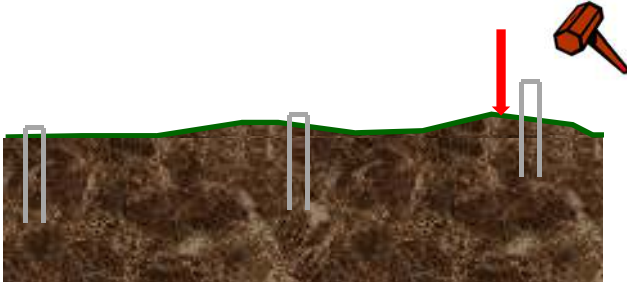


施工手順要項

1) 敷設場所は、除草作業を行ない、刈り取った草やゴミ等を除去します。

①凹凸がある場合は、整地し敷設しやすい状態にします。



多少の不陸は十分密着します。

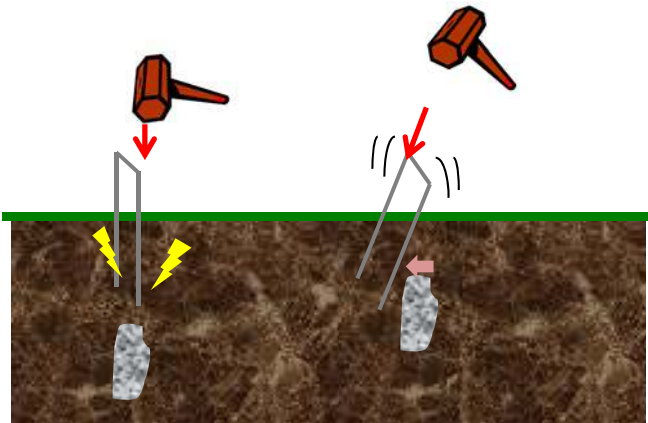


浮いてしまうと、能力の低下や剥がれの原因となります。

②除草剤の散布が可能な場合は散布をお勧めします。

③イネ科等の強雑草、木本類が自生している場合は出来るだけ根を取り除いて下さい。

【打設・カット 工具】



固定ピン打設で、石、ガラなどにぶつかっているような場合は、同じ場所（同じ穴を使用）で、少し角度を変えて打設してみてください。位置を変えると使用しないピン穴が開き雑草の発生原因となります。（失敗したピン穴はテープやコーキングを使って補修してください。）

また極端に角度をつけるとピンの根入れの深さが変わりますので御注意下さい。

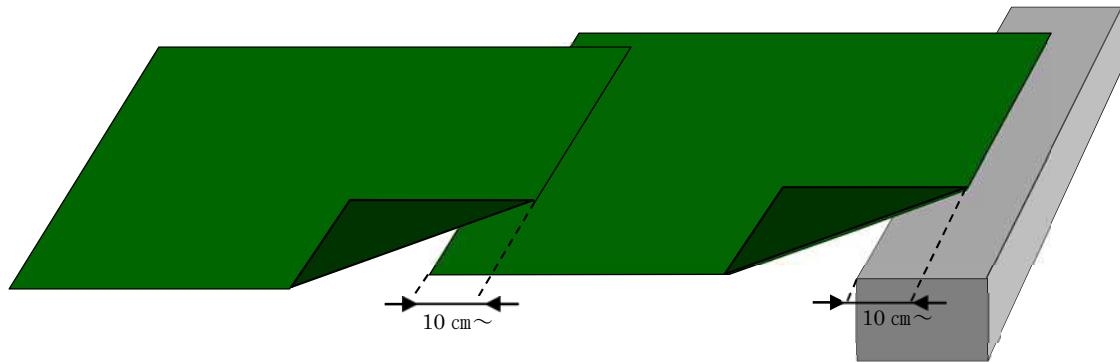


打設工具は、木槌、樹脂・鉄製のセットハンマーなどで、打設します。地面の硬度で、工具を選んで下さい。

シート（マット）をカットする場合は、裁縫用の裁ちバサミ、大き目のカッターなどを使用します。裁ちバサミが使い勝手が良いです。

2) 敷設場所の形状に合わせてシート（防草シート・防草マット）を敷いていきます。

①シートをラップさせる場合は、ラップ幅を10 cm以上とって下さい。



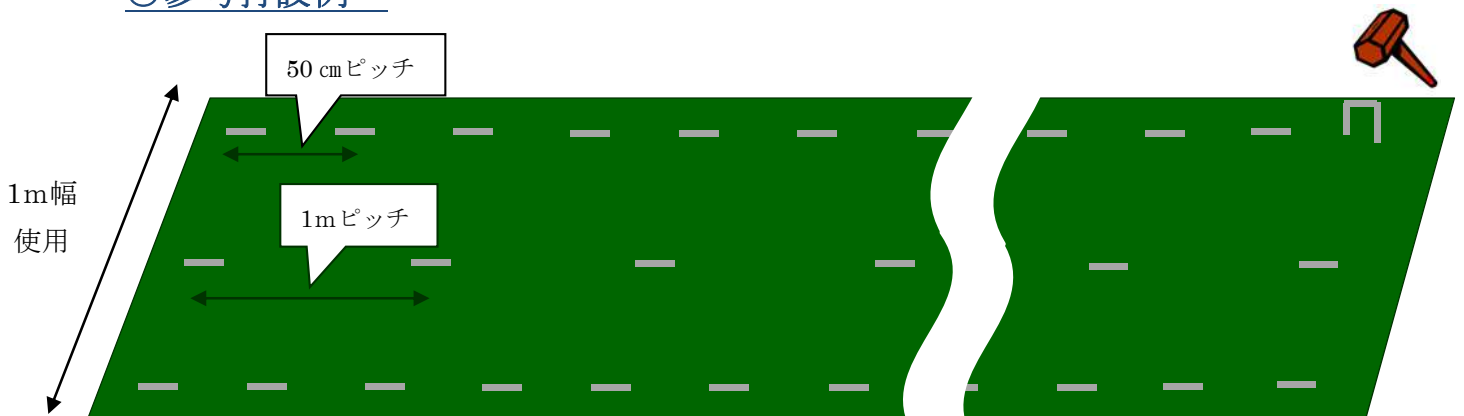
縁石などのコンクリート躯体などに接着する場合も、接着シロは10 cmとって下さい

②固定ピンの打設は約50 cmピッチを目安として下さい。

(1 m²当り、平地で4~5本、法面で5~6本)

※ピンの設置数は参考値であり、現地状況に合わせて増減させて下さい。

○参考打設例



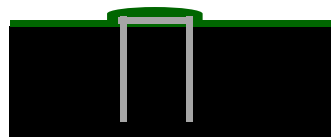
※上記の打設例では、5本 / m²の打設となります。

【マン丸君】

また固定ピン打設部の強化、ピン穴からの雑草発生防止に、マン丸君（JG-80・JB-80）との併用をお勧めしています。※JG-80・JB-80は、角U型ピン（IPS-230）、補助ピン（IPS-180）用です

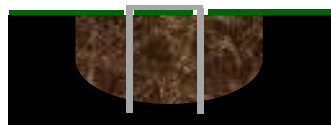
マン丸君使用

マン丸君（JG-80・JB-80）の併用により、打ち込み部の保護、補強、雑草発生の抑制が可能です。



不使用

マン丸君を使用しない場合、ピン穴から光が差し込み、土中に残った雑草の根などから雑草が発生する可能性が有ります。



3) ボンドの使用

ボンドは、シート（マット）同士、シート（マット）とコンクリート躯体などを接着するのに有効な資材です。隙間からの雑草発生の抑制、風の吹込みの防止などに効力を発揮する施工方法です。

※シート（マット）同士、コンクリート躯体などとの固定には、ボンドを御使用下さい。マルチング接着テープは、切込みなどを塞ぐ場合に使用する補修用資材です。

※一部、ボンドとの相性の良くない製品が御座いますのでお問い合わせください。

○ボンド使用例



ボンド不使用、隙間からの
雑草発生



シート（マット）同士の接着



シート（マット）とコンクリート
との接着



コンクリート製架台と接着



擁壁との接着



道路端部と接着



施工前



施工後
マット同士・マットとU字溝
マットと縁石を接着



インター合流等の視認性を確保

【ボンドの施工方法】 EASY チューブ

① 対象物の清掃



躯体などに接着する場合は、接着不良の原因となりますので埃、砂、土などを十分に取り除いて下さい。

また、湿ったコンクリートや新しいアスファルトなどの水分や油分を含む物には接着出来なかったり、接着力が極端に低くなる場合があります。

② 塗布



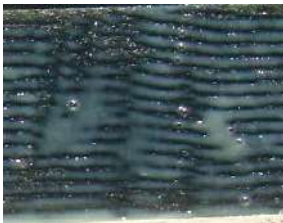
15kg 缶を使用する場合は適当な容器に取り出し塗布します。ボンドを伸ばす際は、金属・プラスチック・ゴム・シリコン等のヘラや先が楕目になったスクレーパーなどを使用すると便利です。刷毛はすぐに毛の部分が固まってしまうので使用には向きません。



300cc カートリッジタイプを御使用の場合は、コーキング剤などに使用する一般的なカートリッジガン
を別途御用意下さい。



③ 接着



塗布をしたボンド表面に小さな気泡が浮いてきた時が接着タイミングです。気温などによりオープンタイムに差がありますので、現場での確認をお願いします。C-3 シリーズは透水性が良いので乾燥時期などはマットにボンドが吸われますので、早めの接着が良施工のコツです。

④ 圧着



接着後は、十分に圧着させしっかりと止めて下さい。木槌などで軽く叩くと効果的です。

また、接着施工翌日など、接着不良がないかの点検をお願いします。

15 kg 缶で御使用の場合は、写真の様な市販の容器に移し替えると便利です

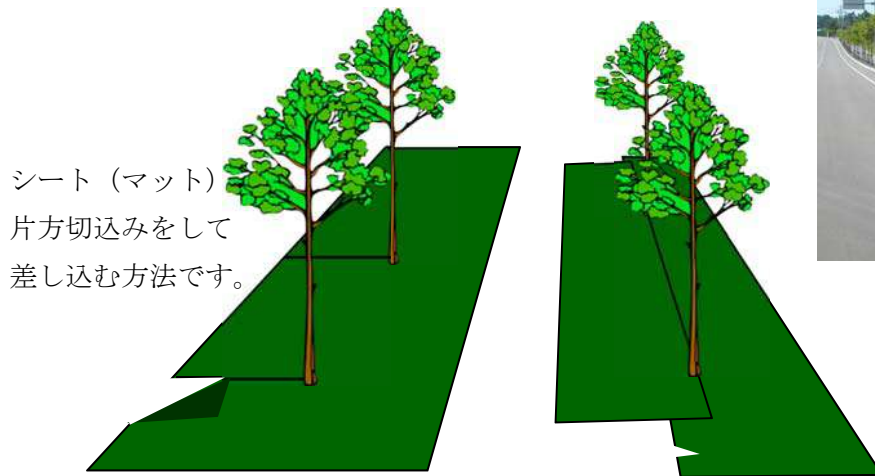


塗布工を追いかけるようにスクレーパーなどで伸ばして行きます。平地の直線な場所の施工で、非常に効率の良い方法です。

注意：容器の口は対象物に近い、低い位置で流して下さい。特に強風時の施工は、ボンドの飛散に注意下さい。

雨天時、対象物が濡れている場合はボンド施工を控えて下さい。

3) ①植栽がある場合（中高木）

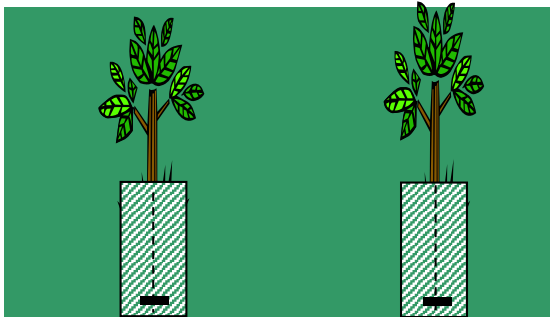


2本以上のシート（マット）を使い株元分だけ切込みをして、挟み込む方法です。切込みをいれたシート（マット）下側にして切込みを隠します。

中高木の場合は、植栽を先に行い、マットに切込みを入れ敷設する方法がポピュラーです。

シート（マット）片方切込みの場合

切り込み部に固定ピンを打設し、上から接着テープを貼りつけます。



3) ②植栽がある場合（地被類）

地被類や鉢径の小さい低木は、敷設後に十字、またはT字に切込みを入れての植栽がお勧めです。

